前略　御新著の大ばけ小ばけ己をいただいて ありがとう
ございました、あちこち拾い読みして、面白いので大体拝見
しました。滝井さんのものをよく読んでおいでなので感心し
ました。私はどうも窮屈な感じで敬遠しがちでした。
しかし、一五歳で「たけら鶴の眼燃ゆらん篝哉」とは
ただごとでありません。あなたは対象との距離のとり方の
名人と思っていましたが「小林秀雄さんの追憶」では
改めて敬服しました。「丹羽氏への質問状」は雑誌でよみ、
おなじような意味で感心し、ここは当然一言あるべきところと
思いましたが、こんど読んであまりに紳士的なのを食いたりなく
思いました。